

# 四つの空 いのちにありがとう

4組の家族の「小さいいのちの物語」

いのちに向き合い、困難を乗り越え、幸せになるための物語



いのちの大切さ、家族の絆、生きる、本当に大切なことを見つめます。

家族や仲間とともに、あなたの学校・職場・地域でご覧ください。

生きよう、きっと幸せになれるからと、心感じられる映画です！！

## 出演者

NHKテレビ、朝日新聞、中日・東京新聞等でも紹介



鈴木 中人

普通の会社員だった。長女（当時6歳）を3年間闘病して小児がんで亡くす。「殺した」との自責の念、逆縁の悲嘆に沈む。やがて、何の当てもなく会社を辞めて「いのちの授業」をはじめ。8年間で15万人の心を響かせる。

何を思い人生を変えたのか？ 語り継ぐ“いのちのメッセージ”とは？



高橋 真依

小学6年生で白血病を発病。辛い病床で思う、「優しい看護師さん。私も、いつか看護師として病気の子どもたちの“いのち”を支えたい」と。しかし、中学3年生のときに後遺症（骨の壊死）が、さらに高校3年生でバセドー病が判明。

どのように夢に向き合おうとしているのか？ そのとき家族は？



小出 朋子

創業明治28年の老舗料理店に嫁ぐ。不妊治療8年、やっと授かった“いのち”は重度障がい児だった。泣くだけ泣いた、「娘にも普通の世界をみせたい」。女将として働きながら合唱団や車イスダンスにも通い一人娘を育てる。

娘と家族、支えてくれる人への感謝、その笑顔の向こうにある思いとは？



吉岡 生未

妊娠23週での緊急出産。医師は父親に伝える、「最悪のことを覚悟してください」と。体重326グラムの女の子は“奇跡のいのち”を授かる。「未」来を「生」きてほしいと、生未と命名。今、障がいを負いながらも普通小学校に通学。

少女の存在から発せられる生きる力とは？ 見守る家族の願いは？

出演：鈴木中人、高橋真依、小出朋子、吉岡生未 監督：杉本幸雄 語り：石黒志伸 プロデューサー：鈴木中人 制作：NPO法人「いのちをバトンタッチする会」他 カラー1176

開場 13:00

第一部 ドキュメンタリー-映画上映 13:30~14:50

第二部 鈴木中人さん講演会 15:10~16:00

第三部 鈴木中人さんと語る会 自由参加

日時 平成26年9月10日(水)

時間 13:30~16:00 (受付 13:00から)

会場 ダスキン大石 ニ階セミナールーム  
(旧丸亀産業プラント跡)

参加  
無料  
です



ダスキン大石  
松阪市茅原町120-3  
0120-46-1134  
Fax 0598-34-1110  
mail info@d-ohishi.com

主催：ダスキン大石